

2月

みんぱくウィークエンド・サロン 研究者と話そう

■ 14時30分から15時30分
■ 展示観覧料が必要です。
※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんぱく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、
話題や内容は実に多彩。
どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

3日
(日)

話者：宇田川妙子（国立民族学博物館 准教授）
話題：ヨーロッパの生業と1年
会場：ヨーロッパ展示場

10日
(日)

話者：丹羽典生（国立民族学博物館 准教授）
話題：オセアニアの紛争
会場：オセアニア展示場

17日
(日)

話者：森明子（国立民族学博物館 教授）
話題：ベルリンで既製服が生まれた頃
会場：ヨーロッパ展示場

24日
(日)

話者：藤本透子（国立民族学博物館 助教）
話題：中央アジアの春の祝祭ナウルズ
会場：東南アジア休憩所

1年間みんぱくに何度でも入館できる 「みんぱくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

- 特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引
 - ◆みんぱくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
 - ◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。
- 詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)

編集後記

やや強引なネタふりだが、今月の特集テーマとの関連で写真についての話である。写真なしの『月刊みんぱく』はありえないが、人類学者にとっても写真はデータとしてかかせない。とくにフィールド調査では、二度とお目にかかれなくてもいいかもしれない調査場面の記録のほか、単なる記憶の補助としても大量にとる。民博では30年前すでに研究者のあいだではカラースライドが一般化しており、調査に2、30本ほどのフィルムを携えるのはザラだった。しかしこれらもたまたまスペースをとり管理も容易でない。今日、デジタルカメラが普及し保存媒体も小型化軽量化したが400本ほどのスライドはケースにはいったまま研究室書架の上を数メートル占領している。おまけに10年もたてばスライドは劣化するとかでデジタル化を急ぐ仲間も多いが、作業の面倒さもあり手をつけていない。交換レンズを持ち歩き苦労して撮影した思い出もありスライドそのものに愛着がある、なんて言っている場合ではないのだが。 (庄司博史)

2012年10月号特集の内容に誤りがありました。下記の通り訂正いたします。
p6-7「暴力の採点」にて、p7前から5行目
誤) WBVAでは四ラウンドごとに 正) WBCでは四ラウンドごとに

●表紙：ランプ 標本番号：H0168525 地域：エジプト・アラブ共和国

次号の予告

特集
特別展 **マダガスカル 霧の森のくらし**

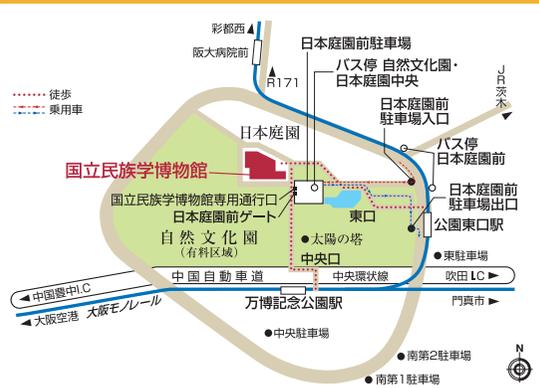
月刊みんぱく 2013年2月号

第37巻第2号通巻第425号 2013年2月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 八杉桂穂
編集委員 庄司博史（編集長） 小川さやか 樫永真佐夫
久保正敏 菅瀬晶子 山中由里子
編集アドバイザー 山内直樹
デザイン 宮谷一孝
制作・協力 財団法人 千里文化財団
印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
お願いします。
*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてください。



みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

